

- ・日 時 : 2017年 6月 1日(木) 10:15~16:00
- ・内 容 : 日本橋高島屋正面玄関から出発、専門の案内人とともに日本橋界隈の老舗を巡る(参加者 21名)
- ・老舗訪問先 ①~⑩ 及び 案内人による途中説明 (☆印);

☆ 日本橋地区は橋(日本橋)を挟んで北と南に分かれる。古くから北側の氏神は神田神社(神田明神)、南は日枝神社(山王社)であり、「深川祭」を加えた江戸三大祭の「神田祭」「山王祭」は橋を隔てて隔年ごと、交互に行われる 【おまけの追記:神輿深川、山車神田、だだっ広いが山王様】

- ① 吉野寿司本店 (<http://www.nihonbashi-tokyo.jp/enjoy/people/201204/>) 中央区 日本橋 3-8-11  
創業 1879年(明治12年) ここでは寿司3貫を試食(マグロ、アナゴ、タマゴ) / 写真下・左

☆ 江戸秤座跡 中央区日本橋 3-7-20 (秤量の基準統一のための役所跡) / 写真下・中

- ② お多幸本店 (<http://www.nihonbashi-tokyo.jp/enjoy/gourmet/201505/>) 中央区日本橋 2-2-3  
創業 1923年(大正12年) ここでは昼食として、一番人気の「どうめし定食」を摂る / 写真下・右



☆ 竹久夢二の港屋絵草子店 ゆかりの地記念碑 中央区八重洲 1-2-1  
竹久夢二が自らデザインした版画や封筒やカードを売る店があったところ

☆ 【一石橋】北橋詰の本両替町に幕府金座御用の後藤庄三郎、南橋詰の呉服町に御用呉服商の後藤縫殿助の屋敷があり、当時の橋が破損した際に、この両後藤の援助により再建された。そのため後藤の読みから「五斗と五斗で一石」ともじった洒落から一石橋と名付けられたと伝わる。



- ③ 榮太樓總本舗 (<http://www.eitaro.com/>) 中央区日本橋 1-2-5  
創業1818年(文政元年) 初代が江戸で和菓子業の礎となる屋号「井筒屋」を構え、3代目細田安兵衛(幼名栄太郎)が現在地で開業、1857年(安政4年) 店の入口には開業時の店の広さを示す仕切りがある

- ④ ROJI (<http://www.roji-nhb.jp/>) (国分グループ <http://www.kokubu.co.jp/>) 中央区日本橋 1-1-1  
創業1712年(正徳2年) 大國屋の名で呉服商・醤油醸造。建物の壁に歴史の流れを示すパネルを展示心地よい川風に吹かれながら、提供された缶詰のオイルサージンを試食

☆ 【日本橋】橋の中心に日本国道路元標が埋め込まれ、真上にもそれを示すモニュメントがある。江戸開府の1603年(慶長8年)に架けられ、以後19回の架け替えを重ね、現在の橋は1911年(明治44年)3月に完成橋に書かれた「日本橋」の文字は徳川慶喜侯の筆による



- ⑤ 八木長本店 (<http://www.yagicho-honten.jp/>) 中央区日本橋室町 1-7-2  
創業1737年(元文2年) 徳川幕府八代将軍吉宗の頃に創業  
鯉節、しいたけ、昆布など各種だし、まめ、煮干し、素麺、うどん、茶そばなどそれぞれ最上の品物を扱う

- ⑥ 山本海苔店本店 (<http://www.yamamoto-noriten.co.jp/>) 中央区日本橋室町 1-6-3  
創業 1849年(嘉永2年) 以来、海苔一筋の暖簾を守る  
女優 山本陽子が1967年以来、宣伝キャラクターとして契約 50年連続で、ギネス記録に登録されている

☆ 「三越前」駅地下コンコース壁面に飾られる 絵巻『(きだいしょうらん)』(複製)で200年前の日本橋街並みを偲ぶ (<http://www.mitsuifudosan.co.jp/corporate/news/2009/1130/>)参照

- ⑦ 伊場仙 (<http://www.ibasen.co.jp/index.html>) 中央区日本橋小舟町4番1号  
創業 1590年(天正18年) 江戸幕府の御用達で、和紙、竹製品、などを扱う。  
江戸時代後期より、うちわ浮世絵を扱い、版元として当時制作した「伊場仙版」  
浮世絵は国内はもとより、欧米の美術館にて収蔵されている



- ⑧ 小津和紙 (<http://www.ozuwashi.net/>) 中央区日本橋本町3-6-2  
創業 1653年(承応2年) 和紙の専門店  
1階が店舗、2階がギャラリー、3階が史料館となっており、  
見学・立ち入り自由  
2階のギャラリーではセルフサービスのお茶でしばし休息



- ⑨ 江戸切子の店 華硝 (<http://www.edokiriko.co.jp/>) 中央区日本橋本町3-6-5  
創業 1946年 本社は亀戸。江戸時代にその製法技術が確立された江戸切子発祥の地、日本橋に1年前に  
店舗・ショールームを構え、江戸切子を知り、作り、そして、触れて、江戸切子再発見の場を設置。

☆ かつての日本ビクター本社があった日本橋本町4丁目角を曲がり、その近くにあるお江戸日本橋亭前で参加者全員で集合写真撮影



- ☆ 海老屋美術店 (<http://www.e-ebiya.com/>)  
再開発が進む日本橋室町の街角に残る骨董店  
今回の見学先ではないので、中には入らなかったが、ショウ  
ウインドウにはレトロな家具が並ぶ  
このビルの壁面に描かれた「写楽」の役者絵が目立つが、  
江戸東京博物館のマークはこの目の部分であるとのこと



- ⑩ 千疋屋総本店 (<http://www.sembikiya.co.jp/>) 中央区日本橋室町2-1-2 (日本橋三井タワー)  
創業 1834年(天保5年) 武蔵国埼玉郡千疋の郷(現在の埼玉県越谷市千疋)の侍だ  
った初代弁蔵が江戸、葦屋町(現日本橋人形町3丁目)に「水菓子安うり処」の看板を掲  
げ、果物と野菜類を商う店を構えたのが始まり  
現在は世界中の高級果物を販売。青果の大田市場でも最高ランクの果物を仕入れて  
販売しているとのこと



◇◇◇ 以上で、案内終了。案内をしていただいたのは 川崎晴喜さん(右)  
歩行距離約3km。あたらしい発見がいっぱいありました  
訪問先でのお土産もかばんの中、いっぱいとなりました



日本橋めぐりの会のHPは下記URL参照

<http://www.nihonbashi-meguri.com/index.html>

江戸の架け橋！  
日本橋めぐりの会  
企画・運営担当  
川崎晴喜  
受付:平日  
10:00~17:00  
(土・日・祝日を除く)

090-8803-1144